

生活支援体制

上阿多古地区

令和5年度【活動の方向】

①地域に対するささえあいポイント事業の周知を行う。

②ささえあいポイント登録ボランティアを

増やしていく方法を検討する。



【第1回目】5月29日(月)

○自己紹介と近況報告

○ささえあいポイント事業の

地域への周知について

7/1 サロンダー会議

8/3 西りんどうの会

8/3 大沢りんどうの会

8/3 落合りんどうの会

【こんな声が...】

地域内での交流が減った。結果認知機能の低下が進んだ。同居する子どもが親の状態を把握していない。



【第2回目】8月28日(月)

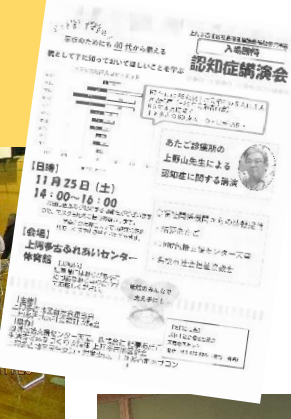
○ささえあいポイント事業の地域周知の報告

○今後協議する内容について検討

* 認知症を地域の人に知ってもらう機会の提供

～地域のコラボ事業～

自治会×地区社協×サロン×包括
×あたご診療所×結夢あたご



【こんな声が...】

ささえあいポイント事業は、「お世話になることに気がひける。」高齢者に関わる関係機関への周知も必要。

「認知症」については、40～50代の世代にも知ってもらいたい。日頃参加しない人にも来て欲しい。

【認知症講演会】11月25日(土)

講演：あたご診療所 上野山先生

福祉関係機関からの情報提供

結夢あたご、地域包括支援センター天竜、市社協

【第3回目】1月22日(月)

○各団体の近況報告

○認知症講演会を開催してみたの振り返り

○上阿多古地区でやってみたい

「人との交流・集まる機会」



【こんな声が...】

認知症になる前に、地域のみなが交流する場が多くあれば、もし認知症を発症しても早く発見でき、早期対応で地域の中でより長く暮らしてつづける事ができるかもしれない。

【こんな声が...】

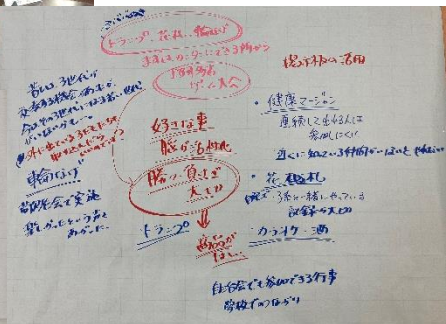
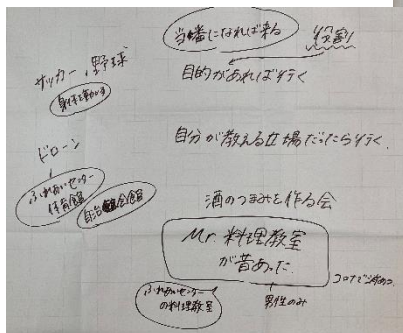
健康マージャンに興味があれば開催もいいのでは男性の居場所？！

子どもたちを巻き込む仕掛け

スマホの機能をいかに合わせて教えて欲しい

天竜高校に福祉科ができたので、高校生とつながってみたい。

上阿多古地区外に出た人にも関心を持って欲しい。



令和6年度

地域でともに支え合い 安心していきいきと暮らすことのできるまち 上阿多古を目指して
いま、私が生活する上阿多古地区は、

介護や支援が必要な状態になっても、できる限り住み慣れた地域で、

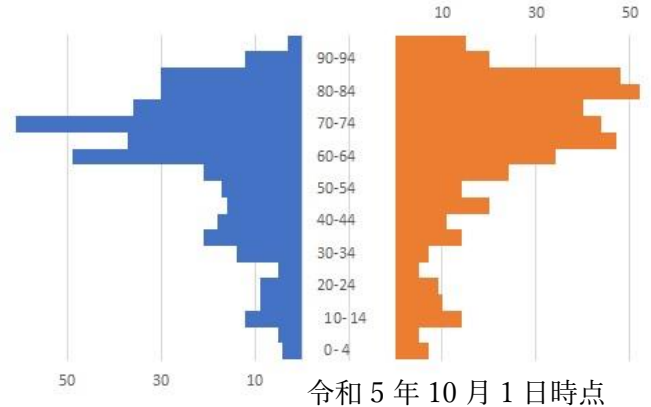
自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができますか？

【統計関係】

4月1日時点

	H21年	H26年	H31年	R6年
世帯数	420	412	391	375
男	632	543	460	399
女	680	592	497	424
計	1,312	1,135	957	823

*引用：浜松市 HP



【生活支援体制協議体 上阿多古地区部会で取り組んできたこと】

○「上阿多古地区生活アンケート」の実施 *令和2年度*

上阿多古に生活する地域の方の課題や「困った」と感じていることを調査。

○「困った時の相談先」一覧表の作成・全世帯配布 *令和3年度*

アンケート結果から、若い世代でも「困りごと」をどこに、どのように相談すればいいかわからない課題が見えてきた。そこで上阿多古地区内のちょっと相談ができる連絡先の一覧を作成し全世帯へ配布。

○「ささえあいポイント中山間地域事業」の周知 *令和4年度*

アンケート結果から、住み慣れた地域で生活を続けていくには、困った時にちょっとした手助けをしてくれる仕組みが必要と分析。そこで、既存の制度の「ささえあいポイント事業(浜松市実施)」を周知し、サービスを必要としている人たちが活用できるよう働きかけを行う。

○「認知症理解について」の啓発講演会

新型コロナ流行以降、外に出る事や地域の行事がなくなり、人と交流する機会が減った。久しぶりに会ったら、「認知機能の低下」が一気に進んだと感じる高齢者が増えた。そこで、「認知症」に対しての理解を広げるには、当事者だけではなく、家族の理解も必要になるため40～50代をターゲットに講演会を実施。

【キーワード】

～認知症の予防として、人との交流や集まることが大切～

令和5年11月25日(あたご診療所 上野山医師の言葉より)

【令和6年度の目標】

①地域の中で、「**人との交流や集まる機会**」を作ろう

②「**関係人口**」を増やそう

*地域外に拠点を持ちながらも、地域や地域の人と継続的にかかわる第3の人口

例：上阿多古が好きで頻繁に行き来する人、地域内にルーツがある人、過去に住んでいた、働いていた人、その地域に対して思い入れがあり、地域活動に参加する意思のある人々